



藝文通覽
 新編

東京大学
 1719
 6止

東京大学



1719
6

艶道通鑑卷之五

雑の忘目録

- 一 子細らしむる部で人切の辰
- 二 伽府よ鼻露後して乃辰
- 三 毒いわたり中とくれ辰
- 四 太夫乃桜教かろの辰
- 五 急せどん乃辰
- 六 濡も花の陰よの辰
- 七 大名持れ小娘乃辰
- 八 清水寺よけくそその辰



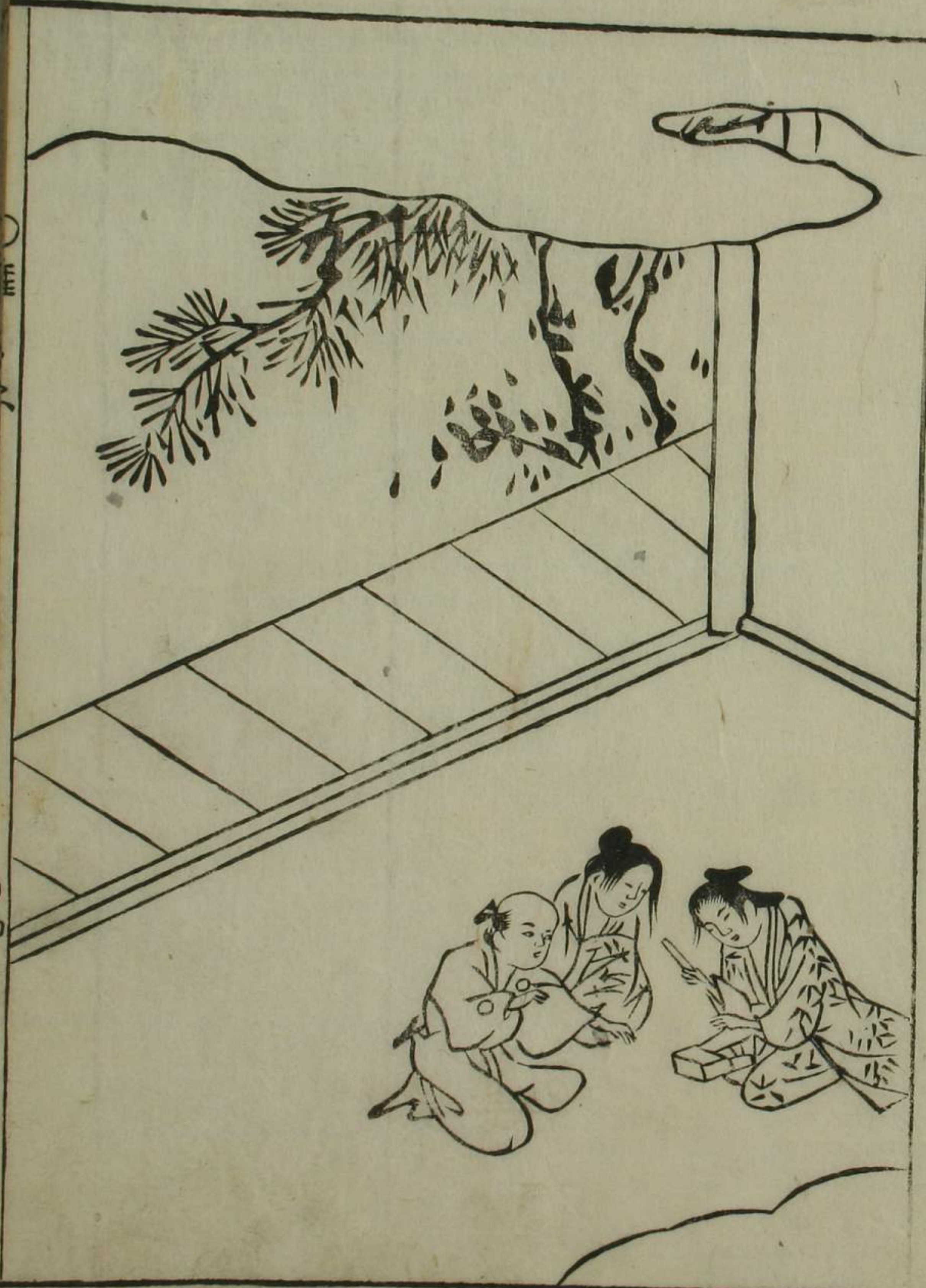
雑の忘目録

- 九 倒賣女色との股
- 十 此方より角立ての股
- 十一 浪くろりまをそれ股
- 十二 月の夜比との股
- 十三 下地礎土よの股
- 十四 鳥かかく鐘とまこえぬの股

一 子細らしく教で人切親にも功德池の内より涌出する水は
 流石が海く程漢めける和尚も菩提樹の二股より生れ
 せど。具體と懐くと作り。じつとるやまをさぐりれ凝然と
 さい。出所の事ふ志れ事。それをやまをさぐり人向世の
 格式志るべ国の中れ戯る。淫て此身とぬのそ。格式倒
 るをさぐり事いゆねおさぐ。一。想行よの向つて。さるはく
 人向世の事。有振る。根本根源乃我身をさるてこそ。
 世をも人をさるる。己が身と人志。びて。作心そふかる
 慢まの。笑に。終る。とれい。わら。出る。け身に。和と。本に
 て。ま。直る。る。め。も。さ。る。と。よ。色。づ。り。の。れ。わ。り。て。

人と歌うんぬ海よりうらやみでやんけつりて人と侍せいの
伯夷叔斉の恥然破家。竜達比干ハ下ハ付後劉伯剛明
は清隆落。樂天李白の吞倒なり。孔子の七十余國を用
らばして。一生宿は日家の身おるに。盜積ハ八千の人数
を援助して生涯を活計よこたり。浮るるをれ学花と花に。
賊乃同類ぞ清と流ぬに公洗むを合の中同ぬける。
ちうと海く出。人回男。草をぬく踏もも。蒼々ぬ
室のうらやみやんぬやんぬやんぬやんぬやんぬやんぬやんぬ
きつ。神佛をば拜じうら。神はよ人とあつれまう。んで
なり。あはそくらんぬぞ好ん。後よ人非人と從て。みけの

人あてんあはれとほむ。佛ハ人面獸心とて。面づり人で根
性ハ犬猫らうとつら。書を教へ書どめたり。この事とこそ
いまやをうらやみ。中は面の皮をむけられても。恥ハたつらぬ
は。いふ。高生道ハ落入り。いづらばこの高生ありとせむ
り。とて。一廉人回るところ。いやく。老廢とかな。高生
おろし
伽羅ハ鼻霞とて。赫ハ舌教あり。そのまじがはる好う。
世のやめそら。そのれが。人合の淡じが。あはつら。びそら。
みるねあて。とらんと。とらざる也。るら。そのの。大エハ準繩紀
矩のまじ。世ハ我とのまじ。中にも。風曲とらんぬ。古の



小も明くわねを多に知り。親にが内のかをふのこゝろと知
 べし。子とよきを瓜作して。親と何とを割あり。是れよりして
 隆如子とおど。あまよら部のあめ内い。さう氣敵と強
 うし。内甲とんとして。家かすつたれ。智あつたよりして。ま
 法接とあまあめど。どし。あまもね人をもした。まはるまら
 をか。二を根付して。わがせよりねたなり。我身をつとてんれ
 痛をさるるものと。人とちせり。強のゆるい。わけて氣敵とよ
 せば。天のうらみの權道より。下化。石生のうら。所漢の風俗と
 作。い。善根乃因なり。さう。さう。け。た。は。う。し。し。

そのもくが分派乃依報正報といはれ。依報とは金取付室
 あり。受。正報といは根具足のひ終なり。終。うら。ね。ね。右。倒。と
 れ。程。よ。あ。そ。ろ。危。角。人。な。ま。い。と。う。が。戯。あり。天地廣大のうら
 しく。酒。よ。上。下。ま。あり。色。と。ね。ろ。る。た。ね。と。う。り。あ。い。嫁。の。い
 る。と。あ。う。れ。一。双。受。つ。て。切。賣。たり。と。か。い。つ。け。ね。よ。ま。さ。が。い。て。
 あり。し。れ。あ。ま。の。何。の。罪。科。あり。と。試。よ。し。て。えん。押。ね。の。位。乃
 女。い。び。り。け。れ。り。物。よ。み。り。あ。ま。の。心。を。よ。せ。ま。あ。ね。の。る。も。る。び。ん
 かな。古。人。の。法。接。と。あ。ら。り。と。茶。の。ね。あ。た。ら。の。も。て。あ。そ。び。と。仕
 是。一。十。粒。香。貝。合。ち。と。い。孝。の。熱。朝。夕。身。の。ま。つ。け。よ。氣。取。付。
 かり。た。も。ね。後。と。れ。さ。び。さ。り。拈。舞。困。然。る。れ。い。中。く。十。人。並。

との白狐。その色つらぬ常盤木。ねの位よりくいは。天女乃假の
 形をえりて。も昔と冠一実の姿といふれ。色花のうけさよ
 ひのわらうも。身代の足平しとて。朝の朝れ出た。後髪
 をひらいて。又寝乃床のあ。穴は地入り。さなるもどく。あみい。
 用との名号よりあがて。友の使のし傳り。古木の元室中。ね
 ころく。あてか。い。魂鼻の先と行。あて。て。膝下の本宅にうさ
 ざれば。親のいともせれ。その。つら。か。い。ふ。それ。あ。の。化。も。は。
 並や通達乃。仙童といひ。あ。げ。う。神と約とらん。とする。将人
 度この精魂。命令をけり。やし。い。ど。れ。そ。ま。を。め。ぐ。じ。う。ん。約。人
 といは。う。梳。果。い。ま。化。室。の。化。室。が。煙。と。う。そ。が。実。後。よ

五

後がゆ合て。その色も。う。ら。後。向。妻。博。育。の。縁。も。あ。の。の。ぞ。
 とれば。命令と持。も。只。お。え。り。う。れ。色。う。は。あ。げ。後。の
 一字と。あ。ら。の。う。ゆ。也。後。が。あ。ま。と。あ。と。ん。さ。う。の。早。く。や。う。う
 が。高。と。の。化。と。れ。と。さ。り。て。安。を。進。ま。い。ゆ。ぐ。ぐ。う。だ
 意。せ。れ。ば。人。の。い。か。う。と。神。と。據。あ。と。て。あ。そ。この。指。と。細
 真。の。室。れ。も。女。を。誰。と。あ。ま。さ。う。と。う。の。役。替。を。し。下。り。る。あ
 う。そ。と。後。と。あ。て。お。ろ。ね。あ。ん。世。に。住。い。大。殿。氣。也。さ。の。あ。じ
 を。け。ら。び。て。事。の。と。げ。あ。い。奇。れ。を。ま。る。う。ら。う。と。う。日。の。の。縁
 う。奥。よ。ま。あ。て。春。客。人。の。意。を。上。和。を。を。う。と。て。不。盡。を
 う。ら。さ。ば。下。戸。う。ら。の。際。を。わ。ら。う。愚。た。れ。よ。お。あ。と。う。う。と

さへ性根と失ふ程はさういふ所もあつたが、或る女を
方々を廻つた男を幸すう人許すくあつた男も、此
日狐場より。福もあつたが、ぬりて。くじもあつたが、
くより日をた乃糸色に泥をつくと通ひに男ぶりのや
かへ。女もあつたやとあつても、男もあつたやとあつても、
乃糸もあつたやとあつても、男もあつたやとあつても、
ら。まの肌は觸らぬまのどぐら。男がわつとあつてとせに、ま
くあつたやとあつた。はつとあつたやとあつたやとあつたやとあつた
乃糸もあつたやとあつた。今白紙多きが、男もあつたやとあつたやとあつた

あつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつた
うみ入て。或の女もあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつた
身たつた。か行まで。裏表なく。くつたやとあつたやとあつたやとあつた
内さあやわつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつた
福がらあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつた
かぐらつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつた
あつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつた
とあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつた
あつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつた
あつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつた
あつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつたやとあつた

あり腹も立ては浮況がなかりあいなと。うねがなむねとあるゆゑ。
一向とんと身につまば。お鼻ははく世のうしは。男もうら
く。枯風吹とちて。はなぐ。婿がめねる人もあねど。おれまで
あやとんとちちらん。あふかりん。未だねをば。さんぞ有る。其
後のみとせども。返事せだ。この方ね。ゆるりて。経果るら
よ。彼女あつて。じて。せうら。ま。妻子あり。その色ね。我とち
あつと。さうら。胸とさぐり。合ま。ま。終て。後外。身力つれ
をわ。床は。はく。より。記わ。だ。この十日づり。は。彼男も。風の
ぬ。地と。つ。い。く。う。う。是。も。悪。き。な。夜。熱。して。抱。も。わ。だ。宿。外
ぬ。一。門。他。家。の。厚。い。入。り。り。り。ま。う。り。り。ん。お。う。う。り。は。男。乃。身

振さぬ。徳城の形と。は。足踏。お。襟。入。て。抱。り。あ。ま。葉
は。け。里。の。物。ま。細。り。の。づ。ね。を。打。あ。う。り。と。う。う。と。ん。と。う。う。内
室。の。い。ん。り。は。是。の。う。う。ふ。能。た。女。乃。生。果。あり。振。乃。振。と
う。び。ぐ。因。り。よ。余。ゆ。さ。し。我。身。小。宿。も。せ。多。う。と。て。細。ぐ。と。又。さ。さ
ら。彼。女。あ。へ。は。ら。う。り。せ。ん。お。ち。の。内。よ。我。ま。い。ち。お。出。て。う。の。う。こ
そ。内。方。は。さ。う。ら。い。だ。じ。お。入。れ。子。共。も。その。こ。い。れ。み。と。さ。い。い。そ
と。て。ね。り。ら。だ。じ。と。わ。ゆ。り。林。く。け。て。く。ら。ぐ。ま。く。ま。く。こ。さ。れ
く。と。も。う。ぬ。よ。お。ね。わ。り。ぬ。あ。の。返。さ。り。も。せ。で。終。り。さ。う。く。ぬ。ぬ。
七日。後。と。て。は。男。も。又。あ。ぬ。わ。た。れ。ぬ。ぬ。ぐ。り。か。り。さ。く。
是。も。面。目。の。對。し。と。さ。し。て。さ。さ。の。ま。情。を。あ。が。け。た。り。ぬ。あ

乃^{こゝろ}意^し知^ら神^をと^は海^をと^はま^ふは^らぶ^らの^ま方^を知^らた^神秘^のよ^り
 き^ん瓜^を啣^みま^つり^て冥^に符^を立^てあ^らわ^りま^ふ。是^を又^も未^だ世^に乃^こ
 志^をり^て。大^に鳥^の雜^に雞^を養^ふも^ひく^はら^はむ^位大^に蛇^の女^をと^りて
 服^をけ^り瓜^をづ^せぐ^りて^男女^を打^た傷^づり^て。う^のお^をと^叩。う^の
 お^い家^と結^びい^らせ^りて^長ま^かて^ひと^女方^を使^つれ^られ^た人
 乃^こ端^の教^えん^と信^じ。後^の摩^のの^まも^性急^な女^を和^しめ^りて[。]
 真^まれ^縁と^結が^らり^まふ^善妙^はは^らふ^事の^つい^どあ^はか
 ぐ^れも^和え^のの^しん^に中^をき^んま^の肉^を服^みて^保料^を
 ぐ^らん^ばら^くさ^い厚^く考^へて^おら^そう^めあ^らひ^とま^つる
 あり^まり^と



大名控だいしやうこのうのこ姫ひめ幼雅おつゆより同鼻どうび乃の同どう今いま逐お行ゆむむ眩くらしし控このう猴ま
 岩いがが力ちからをを盗ぬす根ね性せいなりなりともとも肩かたふふりり寄よ座ざががととりりてて事ことでで
 はは着きぐぐああるるももももうう終しまいいのの様さまりりどど磨すり塚づかのの髭ひげををああしし腰こし背せ
 經くのの行ゆききああつつけけちちまま控このうへへメめ令あささせせとと理り細こいいててああ
 いいれれ毛もう生せい丸まるののゆゆげげととげげれれつつああ容ようとと耕たがううとと毒どく等とうのの仕しええ
 水み打うちおおひひてて貞せい也やととそそままととうう尻し堂だうにいああははれれ人ひとののいいつつ不ふ純じゆんなりなりとと
 ててももそそれれをを清せいとと大だい名ないいととああぢぢるるべべ也や申まをままととるる虎こ尾びめめ
 ららががああるる地ぢ獄ごく乃の責せめががんんてて欲よくのの皮かわぐぐ子こねね道みち身み々々ららいいべべ
 としてとして席まのの始はををいいづづばば休やすままててここいいとといいひひすすすすらら也や
 もも付つのの控このうをを眼がんぶぶのの利りいいままててううららてて信しんののああとといいとと
 縁えんづづとといいつつののいいねねのの信しんををままととささせせ大だい事じにいづづいいとと
 南なん座ざ賭どろろいい海うみにい跡あといいりり伏ふ薦すろろううぞぞもも開あけけ眼めででるる
 ののももたたくくちちももああんんののいいとといいははるるくくささややうういいととぞぞ
 ままででもも罽きががああららいい佛ぶつもも亦またももそのの皮かわををららみみららるるはは
 ながながくくもも未み戴いたくくぬぬのの中なかかにいのの眼がんささららいいてて市いちををででるる遊あそ
 するする縁えんををううららいいぬぬああららいいももままははししるるにいととああららいいのの馬うまををれれああらら
 むむのの色いろ存ぞん一いつ令あをを存ぞん持もちてて控このうののメめ控このうへへはは保たもつつのの白しろ
 がつがつりりももそれそれがが親おやのの案あんへへ鳥う敷し鼻びとと嗅かつつままととそれそれははりり薦す
 ががわわつつもも秘ひ事ことががああららいいててああららいいのの一いつ足あし身みををいいははららいいててかかつつらら
 ららいいららいいてて水みややもものの常じょう々々のの常じょう々々打うちききおおのの本ほんれれ場ば切き花はなととありり

縁えんづづとといいつつののいいねねのの信しんををままととささせせ大だい事じにいづづいいとと
 南なん座ざ賭どろろいい海うみにい跡あといいりり伏ふ薦すろろううぞぞもも開あけけ眼めででるる
 ののももたたくくちちももああんんののいいとといいははるるくくささややうういいととぞぞ
 ままででもも罽きががああららいい佛ぶつもも亦またももそのの皮かわををららみみららるるはは
 ながながくくもも未み戴いたくくぬぬのの中なかかにいのの眼がんささららいいてて市いちををででるる遊あそ
 するする縁えんををううららいいぬぬああららいいももままははししるるにいととああららいいのの馬うまををれれああらら
 むむのの色いろ存ぞん一いつ令あをを存ぞん持もちてて控このうののメめ控このうへへはは保たもつつのの白しろ
 がつがつりりももそれそれがが親おやのの案あんへへ鳥う敷し鼻びとと嗅かつつままととそれそれははりり薦す
 ががわわつつもも秘ひ事ことががああららいいててああららいいのの一いつ足あし身みををいいははららいいててかかつつらら
 ららいいららいいてて水みややもものの常じょう々々のの常じょう々々打うちききおおのの本ほんれれ場ば切き花はなととありり

天琴壇の房つまふ仕立て飽べ休むる山若くは女を樂
つて出づるもぶちやうとていふるにほの湯乃飯のゆるやう
小水煎炊とくお中。少の埋本いまいしておれとて
修せ。多狐の押ぬせの海。その女とて人退きば。較の跡は
お遠かきげんとていふも。馬耳耳の風。れをぞ意乃まてい
いん。飯のと乃噫。遊中。ゆつとめ。あのみり。中。ま乃
ゆり。いあ。ごら。せ。

八

清めさへてきて。北斗堂。買ふ字は。初。昔は。勅。勅の。梵。刺
費を。さへ。不。判。念。佛。の。傍。侶。一。生。不。犯。乃。少。門。若。れ。ア。を。法
業の。庵。を。様。で。石。み。酒。肉。と。い。ま。り。制。れ。は。櫻。が。り。ま。は。止。出

とくづる清浄れ。異地かりし。今。い。様。の。櫻。が。り。ぬ。け。あ。ふ
大根の。根。入。う。く。の。井。の。流。り。以。身。に。個。て。小。使。よ。水。粉。ま
さ。り。う。ま。れ。む。り。う。う。淫。婦。屠。兒。乃。柳。岳。と。か。撥。ま。り。は。灯
は。若。店。の。行。杖。よ。う。り。う。焼。き。あ。く。香。煙。の。様。燦。の。ま。ひ。い。う
ま。い。と。前。の。が。う。と。濁。り。て。あ。ら。ま。乃。法。甲。を。振。暖。氣。風
ま。初。て。若。名。ぞ。人。を。招。く。金。後。碎。と。花。人。の。金。を。月。夜。乃
よ。淨。瑠。璃。一。盃。と。い。つ。と。青。の。い。お。ろ。と。金。と。衣。領。り。と。信。
初。車。が。ぶ。あ。ら。い。を。口。傍。く。一。越。あ。げ。て。の。悪。口。の。列。が。わ。り。と
信。んで。お。ま。を。只。よ。れ。と。て。の。友。初。倍。較。れ。下。の。二。八。局。堀。乃
ぞ。め。れ。し。も。ぐ。ん。の。め。れ。を。傳。へ。と。乃。ち。い。内。よ。り。ゆ。り。み。と。

一度くろくこれい。人の機と傾と詩い。侃い。唐い。勿論。
和州三ヶの津乃松籬。太まの宮に司より。天徹。唐意乃
中通り。月い。彩い。二つ。三つ。ま。わ。若。昏。何の夕。白。れ。白。能
ん。と。る。草。屋。ひ。き。物。の。袖。と。そ。も。を。根。つ。け。る。也。端。まで。
急の切。賣。情の夜市。ま。ご。も。の。ひ。り。召。せ。く。め。せ。く。賣。り。の。い。
子。を。賣。て。押。さ。ゆ。じ。娘。を。賣。て。ゆ。さ。ら。ん。び。い。人。賣
人。賣。て。鬼。林。行。く。ね。を。い。が。ら。料。太。ま。の。辛。と。世。を。ん。ま
泣。と。ろ。所。念。佛。と。う。へ。人。賣。人。賣。と。何。世。の。は。い。と。と。ろ
せ。く。と。賣。あ。い。の。新。田。賣。秋。を。賣。て。い。死。一。信。を。賣。て。い
仙。也。判。と。る。文。道。賣。い。武。道。賣。儒。書。と。神。祕。と。佛。は。と。

こがち。賣。た。い。で。ぬ。に。り。り。う。ふ。下。り。る。世。か。り。と。て。天。地。形。を
あ。ら。わ。ぬ。日。月。光。明。と。う。か。り。ま。う。ら。に。性。と。知。識。廣。術。師。
險。途。乃。老。農。工。士。皆。商。人。と。ぬ。ゆ。い。ど。う。た。晴。と。夜。市。を
や。は。の。灯。り。た。ま。て。い。店。人。母。孤。児。と。と。や。し。世。俗。の。中。笑
う。孔子の窮。痛。原。憲。が。欠。は。良。が。つ。の。居。居。秋。人。備。の。狸
寝。入。り。さん。る。あ。が。け。る。もの。や

十

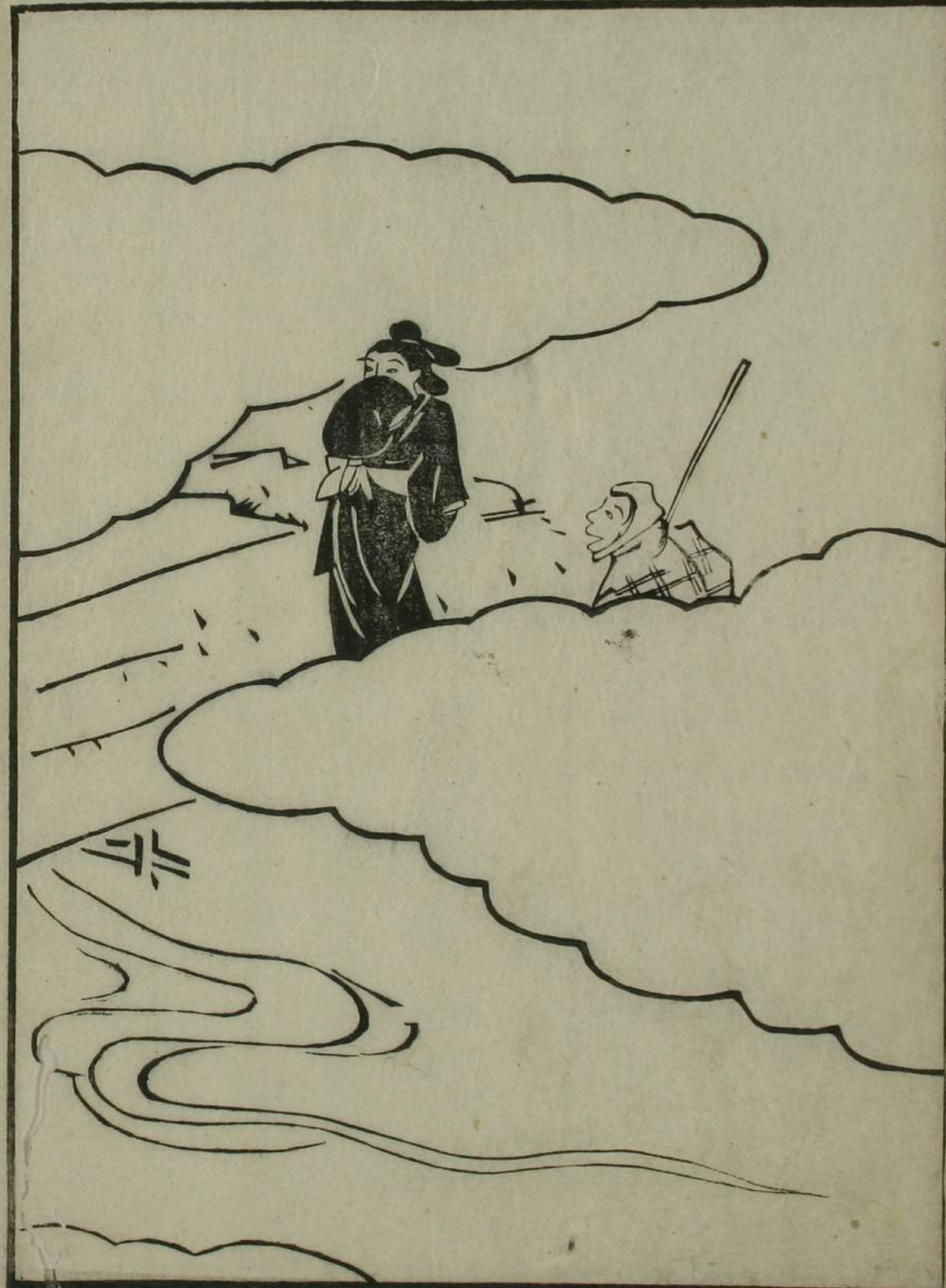
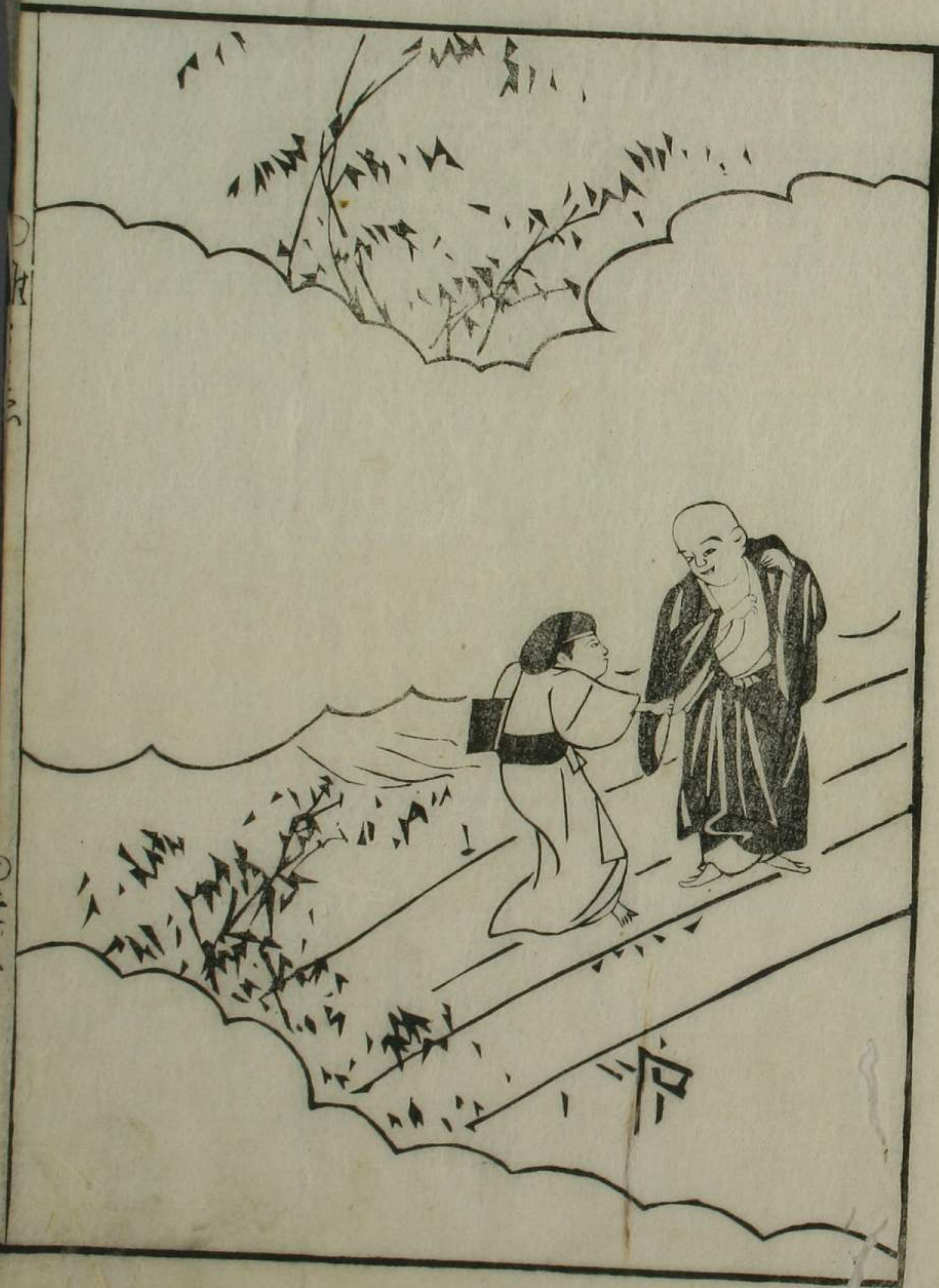
此。方。より。角。立。て。じ。う。り。の。先。よ。牙。く。む。偶。い。る。と。世。中。古
夫婦。男。女。乃。殺。害。後。万。人。づ。其。中。に。命。と。立。自。と。守。る
もの。指。を。折。て。あ。か。ぶ。べ。と。ろ。し。妓。女。の。中。ね。る。事。ハ。何。も。ナ
ぞ。る。い。い。あ。ま。さ。か。り。と。枕。乃。四。一。強。を。こ。と。あ。て。死。ら。る。也。

あささうきくひきくひううゆいほさうけいふあささ女のと
ううん我身ううあささうううううううううううううううう
惜くそのうううううううううううううううううううううう
はもほりほりほりほりほりほりほりほりほりほりほりほりほり
とから男と今いうううううううううううううううううううう
いううううううううううううううううううううううううう
よいうううううううううううううううううううううううう
いんれある若うううううううううううううううううううう
まらうううううううううううううううううううううううう
今いほせううううううううううううううううううううううう

一腰出で。前朝まで極武の志あり。おどやをけられた。
今のううううううううううううううううううううううう
其のううううううううううううううううううううううう
料の求とらうううううううううううううううううううううう
一ふううううううううううううううううううううううう
月は乃勅を感ず。今白のじしを候で。家を去に令給
活ては男いううううううううううううううううううううう
且一年のくれ親にいたぐ。此世は返ぬ。相も衆無さる
土は埋む。園い。今ううううううううううううううううう
月乃夜はをい。園を候ぶ。乃が精魂は柳にて。昔の

川波よ徘徊とる女。二條橋をこのまぢうとるの姉妹。堀川乃
園さんどぞ。巻の乃紐をさしや。伊弉諾としくんをわし小楥
やふりつれ。この巻よ地蔵のおどれ。ゆゆれ塔をさか
へてい。蓮かき。おらのおぬれ悪口ははぎ。うん。さうの
清の扱か。さからあより。見さる目よ。ふほ。ちのぬれ。涙と
うひさり。い。つ。ま。津の宿よ。寝の。かん。と。清。う。い。石。乃
花。ち。ち。げ。や。う。い。と。う。じ。又。相。が。け。け。け。り。黄。香。ま。た。あ。ま。さ
う。と。ゆ。い。歩。行。日向。鼻。と。い。ち。は。鳥。尾。の。の。り。海。じ。う。た
照。換。文。匣。考。物。入。て。地。獄。の。後。洗。血。乃。池。の。縁。を
い。ま。ま。不。老。女。の。お。狐。尾。と。る。業。と。い。年。の。終。の。い。や。り。母。と。い

牛玉死して。慈母存元の車籠ちかたり。じ。う。り。れ。わ。ら。う。の。い
は。終。よ。為。に。付。け。竹。笠。帽。子。に。常。悔。の。産。く。た。り。さ。う。さ。い
い。て。さ。つ。せ。同。信。の。お。同。づ。い。ま。い。姿。も。腰。と。て。け。さ。ふ。ろ。米。う
み。く。麦。の。ま。が。あ。り。と。名。け。い。ま。の。さ。か。り。と。林。が。多。い。歌
う。大。振。の。ま。ま。若。こ。ん。と。長。春。が。う。し。ら。は。さ。が。来。央。乃。柳
と。わ。ら。う。の。糸。よ。ま。て。川。物。を。う。け。け。り。傳。説。に。飽。て。あ
い。好。と。る。癖。者。と。い。う。つ。り。や。う。ら。が。ね。の。一。と。り。と。奇。め
あ。い。精。を。か。い。い。と。い。ま。い。の。ま。や。ま。と。い。と。あ。ま。ぶ。ぶ。と。い
其。介。ゆ。え。の。メ。也。若。葉。葉。う。び。い。ま。や。う。い。ま。い。と。い。わ。れ。あ。い
川。の。い。唐。の。人。を。い。招。き。い。じ。る。丸。の。縁。す。た。来。い。ま。い。と。い



神のゆく

羅綺之為重衣

如無情於機婦

管絃之在長曲

怒不圖於伶人

此詞詠乃をい。うほくきぬ女乃姿を無して。怪やう
かりままりりたるふ。装束れり。こころゆるごと。あめ
やうのぬやうさうさなるや。は。天のね衣もんぞ。似合し
うらぶさぬ。あの中なるぬ厚重絹を。織やう。枝
葉が。悪さ。もの。と。う。それ。人。あ。ぬ。女。の。事。師。も。う。は
り。と。報。あ。笛。吹。もの。が。よ。い。加。減。の。難。さ。と。あ。げ。て。を。の。つ。う
ぬ。が。腹。の。ま。く。り。う。下。れる。う。う。是。に。を。あ。ま。り。さ。う。ぬ。の。ゆ。え。

此詩と曰。一が。唱。う。る。もの。を。い。二。が。う。け。る。を。う。ん。と

おそりやま。一。代。の。製作。お。あ。れ。ぬ。び。情。を。第一。や
と。う。さ。う。さ。う。さ。う。か。あ。ま。さ。く。神。の。伊。勢。通。も。男。女。の
ま。の。契。の。か。い。わ。い。や。え。ん。ふ。い。同。は。む。し。を。書。け。ん。て。
愚。案。の。評。は。を。く。り。て。梓。彫。し。ま。の。く。び。く。ま。れ。い
む。忙。し。ゆ。う。文。の。梅。う。ら。う。は。西。洲。を。さ。う。ざ。う。に。先
い。ま。地。埋。ま。し。た。の。程。乃。千。樹。乃。野。の。け。り。天。り
か。ふ。月。の。新。ろ。あ。水。れ。な。く。照。ら。る。と。れ。甲。の。冬。が。
眼。乃。う。ま。ぬ。拂。へ。ば。伸。と。は。ゆ。び。む。ら。が。あ。ら。ぬ。あ。へ。と。い
う。こ。ろ。い。こ。ろ。あ。ま。か。ふ。初。乃。み。ら。う。さ。う。と。智。恵。乃

賢鏡が狭く。雪原の候名はういと。りやくやあつたりと
かか。けねあ。あいの教をきんらんと。きそて。けち地。法。色。と。見
佛。又。育。ち。る。掌。の。う。ろ。う。用。て。し。ら。が。ま。ん。が。う。ろ。う。ん。ま。い。の。の。の
ごうの。佛。れ。え。ん。願。知。一。の。の。毛。宮。大。の。勢。と。う。の。と。也。
を。れ。ち。る。意。と。併。吞。て。万。人。の。心。を。方。す。に。ね。し。人。の。事
よ。い。わ。れ。其。の。と。我。身。を。ご。と。と。る。ふ。人。を。教。ゆる。才。擇。り
と。は。神。で。鼻。う。む。才。の。極。り。た。瓜。田。の。履。れ。ふ。み。所。定。と。ぬ
自。墮。落。者。と。い。い。し。書。す。必。く。い。ん。の。う。づ。う。だ。西。人。の。お。て
得。も。あ。る。ん。う。捨。る。人。の。捨。て。換。も。ま。う。ん。と。や

或人難曰右件書夫言癡邪
興正則蓋擬于勝母返車貪
泉忍渴之潔白耶若然則艷
道之稱恐落于深著之嘲乎
予解曰放於香餌釣佳魚湛
於泥水待青蓮和光神慮併
在同塵後賢庶其察焉

和朝艶道通鑑 六卷

有像無像小社探 二卷

神國加魔被 三卷

はらへし 志の光 二卷

異理和理合鏡 三卷

直路乃常世州 三卷

神路乃糸引草 三卷

濃科 死出比田分言 二卷

享保四己 亥歲七月吉直

大坂北久冬郎町 瀬戸物屋傳兵衛

大坂尼崎町 武川善右衛門

